道輪口説

本調子

工	五	七	八	四七〇五工五尺	工	四	合	○	フィ	トゥ	タ	ビ	サ	カ	キ	ヤ	ツィ	リ	イン	ヂ	タ	ル	スィ
四	○	四	四	上	四	合	五	七	八	四七○五工五尺	工	四	合	五	七	八	四七○五工五尺	工	四	合	五	七	四
ウ	トゥ	ル		ユ	ヌ	ナ	カ	ヌ	ナ	レ		ム	ヰ	シ	ル	ミ	ヌ		ア	ワ	リ	ハ	ガ
四	上	四	合	工	五	七	五	工	尺	四	ム	乙	四	上	四	乙	四	○	尺	上	四	上	
合	五	七	八	四七○五工五尺	工	四	合	○	ウ		ナ	ヤ	ス	ス	ワ								
尺	工	○	尺	○	七	○	五	工	尺		ム	スィ	ン	ディ	カ	タ	ニ	ウ					
工	四	合	五	七	八	四七○五工五尺	工	四	合	五	七	四	上	老	四	乙	四	五	七	五	工	尺	工
乙	タ	ク	トゥ	バ	ン		イ	マ	ニ	フィ	チ	カ		ヤ	ツィ	リ	イン	ヂ	タ	ル		スィ	ガ
四	乙	四	上	四	合	工	五	七	五	工	尺	工	四	合	四	乙	四	上	四	乙	四	○	四
四	ヰ												シ	マ	ヌ	シ	マ	ジ	マ		サ	トゥ	ヌ	サ
合	五	七	八	四七○五工五尺	工	四	合						○	四	乙	四	上	四	乙	四	○	四	乙	四

道輪口説

本調子

トウ ザ トウ ミ グ リ ミ グ リ テ イ

上 四 合 工 五 七 五 工 尺 工 四 合

ニ ン

五 七 八 四 七 〇 五 工 五 尺 工 四 合 〇 四

ジョウ ケ ン ショウ リ フ トウ キ ケ ン ショウ

乙 四 上 四 乙 四 〇 四 乙 四 上 四

リ ニ ン ジョウ ヌ カ ズ ィ カ ズ ィ

合 工 五 七 五 工 尺 工 四 合 五 七

ウ チ リ ク

八 四 七 〇 五 工 五 尺 工 四 合 〇 四 乙 四

ブ シ ニ ワ カ シュ ニ ン ジョウ ウン

上 四 乙 四 〇 四 乙 四 上 四 合 工

マ ヌ ヰ ブ トウ キ

五 七 五 工 尺 工 四 合 五 七 八 四 七

クリン ディ ワ ラ

〇 五 工 五 尺 工 四 合 〇 四 乙 四 上 四

ビ ナ リ ク ツィ ヅィ ミ ヤ ホ ロ ロ

乙 四 〇 四 乙 四 上 四 合 工 五 七

ン ホ ロ ロ ン ホ ロ ホ ロ ホ ヲッ

五 工 尺 工 合 工 五 七 五 工 尺 工

ト

四 合 五 七 八 四 七 〇 五 工 五 尺 工 四 合

道輪口説

本調子

一、一度栄えば一度衰ふ世の中の習
思ひ知る身のあはれ果敢なや
裾は結んで肩に打ち掛け
やつれ出たる姿言葉も今に引きかへ
島の島々里の里々巡りめぐりて
人形買ひんしやうれ仏買ひんしやう
れ人形の数々
起上り小法師に若衆人形馬乗仏
これ見で童鳴子鼓や
ほろろんほろろんほろほろほっと

二、空も長月はじめ頃かや四方の紅葉を
そめる時雨にぬれて男鹿の
なくもさびしき折に告げくる
雁の初音に心うかれてともにうちつ
れ
出る野原の桔梗苅萱萩の錦を
きてもみよとや招く尾花が袖の夕風
吹くも身にしむ夕日入江の海士のこ
ろもや
さおのしずくに袖をぬらして波路は
るかに
沖に漕ぎ出て月は東の山の木の間に
今ぞほのめく